

今をときめく まちのあの人に 会いに行く vol 13

内富 芳和さん

広島国際学院中学校・高等学校空手道部監督

人生を変えてくれた空手道 諦めずに挑んだ指導者の道

空

手道を始めたのは、小学校4年生の頃です。小学校2年生の時に父が亡くなり、ふさぎ込んでいた当時の私は、内気で自分の意見をはっきり言えない少年でした。引っ込み思案な性格を変えたいと願っていたところ、母が見つけてきてくれたのが空手道場です。当時、ジャッキーチェンが流行っていたので、映画からも感化されましたね。映画の中で、弱い主人公が修業して強くなる過程が、自信のない自分と重なりました。そこからずっと空手道一筋の人生です。高校は安芸府中高等学校に進学しインターハイを目指しました。大学は、空手道の強豪校である近畿大学工学部に進み、勉学に励みながら空手道部に所属していました。日々汗を流していました。卒業後、一度は福山郵便局に就職しましたが、どうしても教員、そして空手道指導者の夢が諦めきれず、5年後に退職。縁あって呉市の呉港高等学校に採用となり、教諭兼空手道部顧問として14年間勤めました。本校への赴任は、3年前の春です。現在は地歴公民の教科を教え、進路指導も担当しています。中学校と高校合わせ24人の空手道部員を指導しています。

海田町にゆかりのある人を毎月ピックアップし、現在の活動や仕事から、海田町への思いまで深掘りしていきます。

5月号では、広島国際学院中学校・高等学校で空手道部監督を務める内富 芳和さんに、空手道にかける思いや生徒たちと共有した夢の話などを教えていただきました。



Profile

うちとみ・よしかず / 広島国際学院中学校・高等学校空手道部監督。広島県高体連空手道専門部指導部部長。平成30年呉港高等学校を退職した後、同校に赴任。空手道指導者としての専門知識を生かし、日々指導に取り組む。